

【件名】	綾瀬川護岸耐震補強工事（その11）	【事務所名】	第六建設事務所	
【工事場所】	東京都足立区綾瀬一丁目地内から同区西綾瀬四丁目地内まで	【受注者名】	りんかい日産・神洋建設共同企業体	
【工期】	令和3年6月8日から令和6年5月8日まで	【主たる技術者名】	監理技術者 小坂 興希	

【工事概要】

本工事は、河川を横断する鉄道橋2橋（JR、東京メトロ）と区道橋1橋、左岸側には河川と並行して走る首都高速道路高架橋といった重要インフラに周囲を囲まれた河道内において、鋼管矢板圧入や河床部や既設護岸底部の地盤改良といった既設護岸の耐震補強を行う工事であった。

受注者は、近接構造物への接触事故を防止するため、綿密に施工方法を計画し、安全管理や施工管理等についても様々な工夫を凝らし工事を進めた。結果、厳しい現場条件にもかかわらず、接触事故や第三者災害等の事故を発生させることなく、約3年間という長期に渡り無事故無災害で工事を完遂した。



施工前



施工後

【受注者の声】

◇ 苦労した点

鉄道橋（JR、東京メトロ）及び区道橋との近接施工となる為、確実な接触防止対策の検討・実施が必要であった。また、鋼管矢板圧入箇所（水中部）において、予期せぬ支障物が確認され、潜水調査・バックホウ台船による撤去後の施工となり時間を要した。

◇ 特に工夫した点

鉄道橋直下での近接施工対策及び第三者対策として、鋼管矢板溶接時に発生する溶接ヒュームの飛散防止・溶接光の低減を実施した。また、レーザーバリアによる監視に加え、橋下で使用するバックホウにアーム制御装置を取付け接触防止対策を行った。

◇ 現場で得られたやりがいや達成感

狭隘な場所での安全施工のため各関連機関等との協議が重要な工事であった。また、支障物への対応や施工方法の検討等、その都度、発注者や社内・協力会社との連携が必要となった。その中で円滑且つ無事故で工事を竣工出来た事に十分な達成感を得られた。

◇ 建設業の将来を担う若手技術者や学生に対し伝えたいこと

現場において自分が何をしたらいいのか初めのうちは分からない事しかないと思います。その中で先輩職員から与えられた仕事は責任感を持って確実に遂行し身に付け、徐々に自分発信で意見出来るよう業務に努めることが必要だと思います。



鋼管矢板圧入状況（鉄道桁下部）